様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２４年６月１９日現在

機関番号：３３２０２
研究種目：基盤研究（Ｂ）
研究期間：平成２１年度～平成２３年度
課題番号：２１３６０３００
研究課題名（和文）沖縄の集落空間における伝統的人工林「抱護」の形態と機能に関する研究

研究課題名（英文）A Study on Configuration and Function of Traditional Planted Forests "Ho:go(抱護)" in the Village Space of Okinawa

研究代表者
浦山　隆一（URAYAMA TAKAKAZU）
富山国際大学・現代社会学部・教授
研究者番号：１０４６０３３８

研究成果の概要（和文）：本研究では、かつて沖縄に広く存在し、今も一部が残存している伝統的な村の人工林「抱護」を現地調査により残存状況を把握し、形態分類を地形特性指標により行った。現存せず消失・変容した重要な事例については明治期地籍図での正確な形態復元が出来た。「韓国の裨補林や中国の風水林」を調査し、東アジア他地域との比較・位置づけが可能となった。さらに「抱護」の形態形成に働く琉球の風水的森林観も明らかにした。

研究成果の概要（英文）：In this research, field surveys were conducted to explore the current distribution and further classify the configuration based on topographical features of remnant traditional planted forests of "Ho:go" that have been widely existing in Okinawa. The accurate configuration of some important historic cases that had vanished or transformed were reproduced based on the cadastral maps of the Meiji Era. the characteristics of "Ho:go" planted forests were summarized compared to other regions in East Asia with field survey results of Bi-bo forests in Korea and Feng Shui woods in China,. It further revealed the Ryukyuan perspective of forest management that has shaped the configuration of "Ho:go."

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００９年度	3,000,000	900,000	3,900,000
２０１０年度	2,300,000	690,000	2,990,000
２０１１年度	2,400,000	720,000	3,120,000
年度			
年度			
総　計	7,700,000	2,310,000	10,010,000

研究分野：工学
科研費の分科・細目：建築学　都市計画・建築計画
キーワード：景観・環境計画　抱護林　沖縄　集落空間　風水思想

１．研究開始当初の背景

沖縄の抱護のあり方については、沖縄の村落研究の先駆者であった地理学者仲松弥秀をはじめとして、集落背後の腰当森とクサティに守られる村として捉えられてきた。ところが郷土史の記述では、抱護は村落を語る際に欠かせない集落構成要素と考えられていた。しかしながら、抱護林をメインテーマとした研究はきわめて少なく、抱護林は集落研究や環境計画で副次的な要素として考えられているようである。他分野においても林政学を専門とする仲間勇栄などが生態学的研究を進めているがまだその蓄積は十分とはいえない。特に離島も含めた沖縄における抱

護林の分布など、その全体的な状況については把握されていないように思われた。

浦山は以前、研究分担者である澁谷とともに、科学研究費補助金「沖縄・八重山諸島における住居・集落のエコロジカルな空間形成原理の研究」(平成 13～14 年度・基盤研究C・研究代表者：神戸芸術工科大学教授・小玉祐一郎）に分担者として参加した際、上記の点を感得し、八重山諸島の石垣島、宮古諸島の多良間島にて現地調査を行った。特に石垣島四箇村、および平得・真栄里村の、消失した抱護林を地籍資料と空中写真、現地調査で一部復元した。続いて、科学研究費補助金「東アジアにおける伝統的地理思想よりみた沖縄の抱護林」(平成 19～20 年度・萌芽研究・研究代表者：中部大学教授・渋谷鎮明）では、抱護林をメインテーマとして収集・踏査・検討・今後の諸課題の整理をおこなった。

ところで沖縄の抱護林は、琉球王府時代の宰相であった蔡温が、風水の論理を育林に応用した際に「抱護」の概念を提唱し、それが一般に広まって作られたものと考えられており、この点で風水との深い関わりが指摘される。このことは沖縄各地に残る風水調査記録「風水見分記」や「緒抱護緒木植付日記」において、きわめて頻繁に植林の指示がなされていることからも理解される。この点についてはこれまで東洋史を専門とする都築晶子の研究が代表的であるが、具体的に存在した抱護林の地籍上での復元や実地調査を伴う研究ではなかった。

また分担者・澁谷は 2006 年 7 月に韓国国立民俗博物館においてシンポジューム「東アジアの風水」で沖縄の抱護林について発表を行なった。シンポジュームでの議論においては、東アジアの風水は各地域の「共有財産」でありながらも多様性に富み、それぞれの地域の位置づけと差異が今後の課題であると判断された。このように考えた際、東アジアにおける風水思想との関連を持つ沖縄の「抱護林」は、韓国の「裨補林」ときわめて類似していながらも、異なる地域的特徴を備えており、しかも具体的な景観変化として捉えることができる。そのため両者の比較研究は東アジアの風水研究の糸口になるものと考えられる。これらの理由から、沖縄の抱護林に働く伝統的地理思想の論理を解明すると共に、東アジアの中で位置づけることをも試み様とした。

２．研究の目的

「抱護林」は、かつて沖縄（沖縄本島とその周辺島嶼、宮古諸島、八重山諸島）に広く存在し、今もその一部が残存している「伝統的な」人工林である。これはただの防風林ではなく風水思想やそれと関連を持つ蔡温の育林法、近世の村建ての規範、「抱護」の観念など伝統的な地理思想が反映されて形成され、またそれらの論理で維持・管理・保全された林地である。

本研究では、この抱護林について、文献・地籍資料と現地踏査を通じて沖縄県全域における残存状況を把握し、消失したもののうち重要なものについては地図（現在の地籍・明治期の測量図）上での形態復元を行なうとともに、その形態形成にはたらく沖縄の伝統的地理思想の論理を探る。また東アジアの他地域において同様にして伝統的に維持・管理されてきた人工林（韓国の裨補林や中国の風水林）との関連で「島嶼琉球型」としての位置づけを目的とした。

（１）沖縄本島とその周辺の島嶼、宮古・八重山諸島に分けて、消失したものも含め、抱護林について歴史資料、米軍の空中写真の分析や現地調査からその位置や規模について明らかにした上で集落の居住域と腰当森を含めた抱護のあり方から集落立地を考慮した類型分類をする。なお、抱護林には村抱護（村落の周囲を囲む林地）、屋敷抱護（屋敷林）、浜抱護（海岸の林地）があるが、伝統的な地理思想が表出しやすいと思われる「村抱護」を中心に考えた。

（２）これらの抱護林についての集落形成上の実用的機能と住民にもたらす精神的機能についても検討する。その形成・維持・管理・保全の論理については、沖縄における林政学・歴史・民俗学等の研究者にもレビューを受けた上で討論する場を設け、昭和初期以降に消滅した抱護林の再評価と南西諸島型のエコロジカルな住居・集落の構成原理の再生のためのデーターベースを構築する。

（３）東アジアの各地の風水林と抱護林との比較研究のため、韓国の「裨補林」の研究者であり東アジア全体の風水思想にも詳しい連携研究者・崔元碩氏（韓国・慶尚大学校・研究教授）と共同現地調査を行う。また中国の風水林調査には東アジアの風水集落実情に詳しい連携研究者・陳碧霞（国連大学高等研究所いしかわ　かなざわオペレーチインユニット・PD フェロー）との共同現地調査を行う。

（４）実態としての「抱護」研究に欠かせない林の生態学的把握のために、森林環境保全や山林風水・沖縄の杣山制度に精通した仲間勇栄氏（琉球大学・教授）を中心に、集落内のフクギの樹齢年代推定を通して近世井然型の集落成立期と「村抱護」の関係を考察するとともに、抱護林にみられる林地の維持・管理・保全の特質について議論を行い、沖縄の集落空間におけて村域を視覚化させる重要な構成要素である抱護（風水樹林帯）の形態と機能を明らかにする。

３．研究の方法

（1）八重山・宮古諸島の明治期における「村抱護」林の復元：文献並びに地籍資料が比較的、残されている八重山・宮古諸島では近世琉球の村落空間構造の読み取りが可能であると判断した。①現地予備調査から抱護林が村の聖地の場所ウタキ林（腰当森）と関係し、古い掘り抜き井戸や水源の位置とも連動して形成されている事を把握した。そこで石垣島の旧四箇村（石垣市市街地）及び多良間島の事例について、古絵図・明治期地籍図・現在の地籍図の分析並びに米軍航空写真・土地台帳データーを重ねあわせ、さらに抱護林の立地諸条件の整理と現地情報を合わせた村抱護林を加筆した集落空間構成図を作成すると共に、その近・現代における抱護林の変容過程・消滅プロセスを明らかにする。②石垣市の平得・真栄里村・大濱村・宮良村・白保村を対象とした明治 20～30 年の集落空間構成の特徴を把握する中で、現在は残存していない村抱護の正確な形態を地籍図上で復元し、その形態的特徴を明らかにすると共に、集落における抱護林の役割・機能を考察する。

（2）沖縄本島と周辺離島における抱護林の現地確認調査並びに地形特性による集落特性分類と村抱護の関係：先の大戦によって、ほとんどの歴史的資料や明治期の地籍資料が失われたため、戦後から昭和 30 年頃に現地測量によって作成された「一筆地調査図」と米軍航空写真を基本資料として考察する。①沖縄本島の中・北部地域と渡名喜島を選定している。具体的には、本部町（備瀬・具志堅）・今帰仁村（今泊）・名護市（真喜屋・稲嶺・久志）・東村（平良・川田）国頭村（辺戸）を調査対象とする。現状の地籍図・土地利用図・米軍航空写真を基に集落の保安林調査を行う。次に「一筆地調査図」と米軍航空写真に基づく戦前の保安林復元調査を現地で行い、村民等のヒアリングデーターを収集する。最後にフクギによる樹齢年代の考察を加えて、保安林指定された内から抱護林の可能性あるゾーンを抽出し、腰当森が集落背後の抱護林である事を明らかにする。②また仲間を中心としたグループはフクギ樹齢推定技術を活用して集落内の屋敷林・抱護林を測定し、近世碁盤目状集落成立と抱護林の関係性を考察する目的で、備瀬集落・渡名喜島・今泊集落それに関連して多良間島のフクギ樹齢年代別による集落全域分布図を作成する。その上で人工林「抱護」の成立・歴史的変遷状況の推定を行う。

（3）沖縄の人工林「抱護」に関する文献資料解読：抱護は沖縄の風水を考えるとき、非常に重要な概念である。そのため、風水師の指導の下で計画・造成された伝統的な集落景観の成立に係わる 1737 年以降の集落形成と抱護（屋敷抱護・村抱護・間切抱護・浜抱護）に関する文献収集と解読を行う。①抱護林造成の論理や、そこにはたらく伝統的地理思想に関しては、蔡温の『山林真秘』や『杣山法式帖』、および沖縄に残る風水書・風水見分記（「北木山風水記」など）・『地方文書』を参考にする。その上で蔡温の基礎文献の現代語翻刻・翻訳を原典から行い、抱護林造成の論理を再考する。なお、風水見分記（「北木山風水記」など）も現地見聞を行って再度の論考をする。②古琉球から近世琉球への社会的変革は、アニミズム的思考から風水思想への革命的変化でもあると捉え、蔡温が使用した「抱護」の中国における古文献の出典を探り、何故、抱護が琉球に受け入れられたかという受容と内容の変遷についても問う。

（4）東アジアの裨補林・風水林調査と抱護林との比較考察：①韓国裨補林調査は・「マウルスプ」とよばれる林地を研究対象として現地調査を実施し，これら林地の造成・維持管理と集落のかかわりについて明らかにする。調査地は，韓国の全羅南道鎮安郡周辺を対象地域とする。韓国研究者との共同調査とし，林地の計測，観察調査，集落環境マップの作成、住民などへのインタビュー調査を行う。また林地の造成に関しては，日本植民地期の地籍資料（地籍図・旧土地台帳）を利用し，インタビューの裏付けをとる。②中国・広東省および香港における現地調査は、抱護林の原型と考えられる中国の伝統的な集落景観を構成している「風水林」または「(風水）林盤」の現状と残存状況を調査する目的で行い、今後の比較研究の糸口を探る。

４．研究成果

石垣島など沖縄県内の広い範囲で集落全体を列状の森で囲う「抱護（ホーグ）」林が存在していた。こうした「抱護」林が本格的に植えられたのは、18 世紀の蔡温の指示によるとされる。その存在は、各地の村絵図にも描かれてきたが、市街地の拡大や戦前・戦後の日本軍の作戦資材・戦後復興の資材などとして多く失われた。

（1）石垣市・旧四箇村における「抱護」林：石垣市街（石垣市の大字新川・石垣・大川・登野城）における「抱護」林は 19 世紀の「八重山古絵図」などには明確に描かれている。しかし集落背後の「抱護」林の樹列は完全に失われたが、領域としてその痕跡を残し、大部分が「産業道路」に転用された。「産業道路」には不自然な土地利用の細長い土地が併走し、保健所など公共利用がなされる。また地籍資料に記録された「抱護」林の消滅過程については、明治 32～35 年の土地整理事業の時点で明らかに人為的に造られたと思われる「山林」の列（現「産業道路」等）に加え、墓地を抱いた丘陵、「原野」が集落を取り囲む。その後、明治 45 年に一列に連

続した「山林」が「保安林」指定された。最終的には昭和 29 年開通の「保安道路」、昭和 50 年代までに順次開通した「産業道路」に一部敷地を譲りつつ、未だ「市有地」であることが判明した。

（２）石垣市の平得村・真栄里村、大濱村、宮良村、白保における「抱護」林：明治 32 年からの「土地調査事業」によって作成された地籍図の入手によって「明治期地籍図」の整理が可能となり、各集落の復元によって抱護の詳細な形態が明らかとなった。対象集落には共通して集落外縁部に樹林帯（村抱護）が分布し、その外側に墓地が分布していることから村抱護に囲まれた範囲が村域を示している可能性を指摘した。このような抱護は、海岸沿いに分布する浜抱護と村域を取り囲む村抱護が存在し、特に村抱護には帯状で幅の小さな形状の樹林帯が多く見られた。一方で村抱護（保安林）は、昭和 20 年ではすでに一部消滅が確認され、現在では一部は道路となって痕跡を示している箇所が確認できる程度である。

（３）多良間島の中筋・塩川地区における「抱護」林：多良間島には、琉球列島の中でも風水集落の村抱護が最もよく保存されている。村の前方には村抱護が、後方には、クサティムイの丘がある。これは琉球島嶼型の風水集落の特徴といえる。1742 年に蔡温が当時の宮古島の頭だった白川氏恵通に命じて村抱護を造成させている歴史的事実がある。抱護の林帯は集落の前方から後方の森にかけて、集落を囲むようにカーブを描いている。「土地整理事業」（1889 年頃）当時の多良間島中心集落は現在の同集落より西に展開していた。しかし 1965 年頃までに、東側の塩川地区で宅地の増加がみられ、東側の「山林（抱護林）」地筆で、1950～60 年代にかけて宅地などに転換されて、抱護林の一部が失われたプロセスを分析した。それに対し、西側の中筋地区では依然として宅地と抱護林との間に農地が残され、距離があることが判明した。なお「土地整理事業」（1889 年頃）当時の地籍図分析から村抱護の林帯幅は現在のそれより広い 16mであった。またフクギの植生構造調査より最大樹齢が植栽年代（1742）と一致していることも判明した。

（４）沖縄本島・今帰仁村今泊集落の抱護林の植生構造：今帰仁名義の保安林指定の場所にあるフクギの樹齢推定から近世期の碁盤型創設期の系譜を持つ抱護林を推定する目的で、フクギの樹齢調査を行い、人工的に植樹された年代を推定した。最大樹齢は 263 年。集落東側のフクギ林帯には 200 年を超える樹木が 5 本もあった。琉球国内で碁盤目型の集落が成立するのは 1737 年以降である。村の抱護の目的で集落形成期の初期段階に計画的に植樹されたフクギ林帯であることが判明した。

（５）沖縄本島・北部の「村抱護」の形態特性：伝統的な集落景観は風水師の指導の下で計画され造成され、近世移動集落の道は碁盤型に計画されている。1737 年以前は、碁盤型に設計された集落は見られないとされる。琉球諸島には約 180 の碁盤型に計画された集落が存在していたという。それらの大部分は、海岸域の砂質堆積地に集中している。ところで沖縄本島北部の海岸域にある集落は、その立地特性から 2 タイプに分類される。一つは西海岸に見られる「海蝕崖下・砂浜地型」ともう一つは東海岸に共通してみられる「海岸砂丘・後背低地（デルタ地）型」である。前者の代表は今帰仁村今泊集落であり、集落の東と西側の海蝕崖丘陵部に村抱護があり、海岸部に海抱護が存在する。後者は名護市久志集落・東村平良集落・名護市名護市街地・うるま市石川市街地（石垣市旧四箇村もこのタイプに含まれる）等である。後者の地形特性は集落の背後の小高い丘陵部分に集落を腰当するような腰当林帯（クサティムイ）を持ち、その林帯の後ろに集落地盤面より低い農作地や耕作地が広がっている。これらのクサティムイは規模の縮小は見られるが今も存在している。抱護系の名称では呼ばれていないが、機能として抱護の役割を果たしていたことが判明した。

（６）基本資料における文献解読：琉球大学付属図書館の宮良文庫の保存されている本来、蔡温の著作であった乾隆 33 年（1768）の筆写本「山林神秘」を後の杣山法式帳の原典と考え、筆写本「山林神秘」の漢文から直接に和文（現代語訳）と英訳を行った。基本資料の内容を現代語に訳する意義は大きい。さらに『林政八書』の中でも「杣山法式帳」と並んで琉球王領時代の山林思想やその技術を知るうえで貴重な資料「樹木播種方法」の和訳（現代語訳）と英訳も行なったことで、人工林「抱護」の本来の意味や使用法のイメージ理解に貢献した。一方、蔡温が学んだ風水書の原典確認のために『首里地理記』の記述を検討し、徐善繼・徐善撰『地理人子須知』（万歴 11 年・1583）を収めていたことが判明した。この『地理人子須知』の中に「包護」の語がみられる。「包護」の語は 1 箇所のみであり、囲繞空間について「包護（す）」と表現している。従って、琉球風水の「抱護」の概念は、蔡温が渡福中に学んだ『地理人子須知』に基づくものと考えられよう。

（７）東アジアの裨補林・風水林調査：香港・広東省に出向き、香港魚農自然護理暑の案内で蓮塢集落の風水林現地調査を行い、大陸の「典型的風水林布局」の理解と香港に今も風水林が存在することの確認をした。さらに広州市の華南農業大学熱帯生態研究所・駱世明教授に「風水林」の華南地域における実

態や研究状況の指導を受けた。中国華南地域の風水林事例調査は深セン市の塤光塩灶村（海辺部）と楊梅村（山地丘陵部）の２か所で行った。韓国における裨補林調査は、全羅北道・鎮安郡・馬耳山道立公園近隣の「村の林」を調査対象とした。選択理由としては裨補林資料が豊富である事と地元民俗研究者の充実である。延世大・金教授、慶尚大・崔教授（連携研究者）と共同調査行い、20か所の集落で「裨補林」の豊富な事例を採取した。いずれの地域も今後、東アジアの風水思想の環境的影響や集落景観構成の比較研究に欠かせない地域であり、沖縄の風水集落と「抱護」研究の位置づけを国際的に高める視座を与えると確信した。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１４件）
①浦山隆一・澁谷鎮明、沖縄の近世集落形成に関わる「抱護」林について、『東アジア地域の歴史文化と現代社会』63～77、査読無、2012
②鎌田誠史・浦山隆一、石垣島平得村・真栄里村における村落空間の特徴と変遷－明治期の資料を活用した村落の空間構成の復元を通じてー、日本建築学会九州支部研究報告、51 号、197～200、査読無、2012
③Chen B. and Nakama Y.　A Feng Shui landscape and tree planting with explanation based on Feng Shui Diaries: a case study of Mainland Okinawa, Japan. Worldviews: Global Religion, Culture, and Ecology。Vol. 15, No.2、168-184、査読有、2011
④ Chen B. and Nakama Y、On the Establishment of Feng Shui Villages from the Perspective of Old Fukugi Trees in Okinawa, Japan. Arboriculture & Urban Forestry。37(1)、19-26、査読有、2011
⑤BIXIA CHEN and YUEI NAKAMA、Distribution of Fukugi(Garcinia subelliptica)trees as Landscaping trees in Traditional Villages in Ryukyu Islands in Japan. Pacific Agriculture and Natural Resources, Vol.3, 14-22,査読有、2011
⑥Bixia Chen and Yuei Nakama、Distribution of old Fukugi(Garcinia subelliptica) trees in traditional cultural landscapes in Okinawa islands in Japan Journal of the Japanese Society of Coastal Forest、Vol. 10. No.2、79-88、査読有、2011
⑦鈴木一馨、沖縄の抱護について、歴史地理学、256、69～70、査読無、2011
⑧鈴木一馨、風水の囲繞空間形成と沖縄の抱護、宗教研究、367、421～422、査読無、2011
⑨Bixia Chen and Yuei Nakama、On the Establishment of Feng Shui Villages from the Perspective of Old Fukugi Trees in Okinawa, Japan　Arboriculture & Urban Forestry　37(1)、19-26、査読有、2010
⑩Nakama Yuei. *et al.*　Tree Growing Methods: Revised Japanese and English Translations of Jumoku Hashoku Houhou (樹木播植方法)、The Science Bulletin of the Faculty of Agriculture, University of the Ryukyus. No.57、査読無、2010
⑪Bixia Chen and Yuei Nakama、A Study on Village Forest Landscape in small Island Topography in Okinawa, Japan.　Urban Forestry & Urban Greening　9、139-148、査読有　2010
⑫渋谷鎮明　韓国における風水思想と「脈」の自然観　『現代韓国の地理学』97-116、査読無、2010
⑬山元貴継　韓国農村集落の空間構造とその変化、『現代韓国の地理学』117-136、査読無、2010
⑭鎌田誠史・齊木崇人、近世末期の沖縄本島における間切番所が置かれた村落「主村」の空間構成原理に関する研究、芸術工学会誌、５０号、８８－９５、査読有、2009

〔学会発表〕（計２３件）
①浦山隆一、東アジアの風水思想が近世琉球王朝の国づくりに与えた影響、第２回黒竜江流域文明鶴崗論壇、2011.7.14　中国・黒竜江省鶴岡市
②浦山隆一、沖縄の近世集落形成に係わる「抱護」林への総合的アプローチ、学際シンポジューム「風水思想と東アジア」2011.10.8 中部大学リサーチセンター
③仲間勇栄、植生構造から見た琉球の集落「抱護」の特徴、学際シンポジューム「風水思想と東アジア」2011.10.8　中部大学リサーチセンター
④澁谷鎮明、韓国の裨補風水―「環境」をどう「補強」するのか―、学際シンポジューム「風水思想と東アジア」2011.10.8　中部大学リサーチセンター
⑤山元貴継、沖縄の「抱護」林と近・現代、学際シンポジューム「風水思想と東アジア」2011.10.8　中部大学リサーチセンター
⑥澁谷鎮明、“Hougo” Concept and Tree Plantation in Feng shui Research Diary in Pre-modern Okinawa、Yeongwol Yonsei Forum 2011.5.　Yeongwol、Korea
⑥Chen B., Nakama Y.　Traditional village landscapes on small islands-a case study of

Okinawa Prefecture, Japan, IALE World Congress　in Beijing、2011.9.18-23, Beijing
⑦仲間勇栄、蔡温の山林思想とその実践的意義、蔡温シンポジウム、2011.12.17　さいおんスクエア（那覇市）
⑧山元貴継、近・現代における沖縄の集落と「抱護」林、第６回 東アジア沿海科研研究集会、2011.2.12　愛知県南知多町
⑨鎌田誠史・浦山隆一、石垣島平得村・真栄里村における村落空間の特徴と変遷、2011年度第 51 回日本建築学会九州支部研究発表会　2012.3.4　西日本工業大学
⑩鈴木一馨、沖縄の抱護について、歴史地理学会第 54 回大会、2011.6.25　山口大学
⑪鈴木一馨、風水の囲繞空間形成と沖縄の抱護、日本宗教学会第 70 回学術大会、2011.9.4 関西学院大学
⑫浦山隆一・渋谷鎮明　沖縄の近世集落に関する「抱護」林についての総合的アプローチ」（韓国語）第１回　島と山の人文韓国ＨＫセミナー/日韓共同セミナー「村と林についての文化的考察」、2010.09.01　韓国・木浦大学校島嶼文化研究院
⑬山元貴継　近代における沖縄・八重山地方‘抱護’林 変化（韓国語）第１回　島と山の人文韓国ＨＫセミナー/日韓共同セミナー「村と林についての文化的考察」2010.09.01 韓国・木浦大学校島嶼文化研究院
⑭陳碧霞・仲間勇栄　A study on village forest landscape in island topography in Okinawa, Japan　第１回　島と山の人文韓国ＨＫセミナー/日韓共同セミナー「村と林についての文化的考察」2010.09.01　韓国・木浦大学校島嶼文化研究院
⑮鈴木一馨　風水の囲繞空間形成と沖縄の抱護、日本宗教学会第 69 回学術大会, 2010. 9. 5　東洋大学白山校舎
⑯鎌田誠史　沖縄本島における近世村落の空間構成原理に関する研究、中部大学中国語中国関係学科セミナー、2010.11.6　中部大学中国語中国関係学科
⑰ SHIBUYA Shizuaki 、 Perception of Geographical Features and the General Concept of “Shui- kou” in the Feng-shui thought of East Asia 、 International Congress of History of Science and Technology, ＸＸＩＩＩ、 2009.8.1 Budapest
⑱山元貴継・浦山隆一・澁谷鎮明、 石垣市・旧四箇村における「抱護林」の現状、日本地理学会 2009 年秋季学術大会、2009.10.23　琉球大学
⑲仲間勇栄・浦山隆一・陳碧霞、沖縄の村落景観と抱護の林帯の植生構造に関する調査研究（Ｉ）、平成２１年度日本海岸林学会研究発表会 2009.11.7　日大工学部津田沼キャンパス
⑳鎌田誠史、沖縄本島の集落・喜名村における伝統的人工林「抱護」の形態、芸術工学会 2009 年度（神戸）秋期大会研究発表 2009.11.7　神戸芸術工科大学
⑳渋谷鎮明、風水と樹林地―韓国の裨補林と沖縄の抱護林―、中部人類学談話会、2009.11.28　南山大学

〔図書〕（計３件）
①仲間勇栄、琉球書房、島社会の森林と文化、1012、1～566
②Chen, B. & Nakama Y.、Nova Science Publishers, Inc., New York、Traditional Rural Landscapes in Island Topography in East Asia、1012、1～279
③仲間勇栄、㈱メディア・エクスプレス、増補改訂　沖縄林野制度利用史研究、2011、1～369

６．研究組織
(1)研究代表者
浦山　隆一（URAYAMA TAKASKAZU ）
富山国際大学・現代社会学部・教授
研究者番号：１０４６０３３８
(2)研究分担者
澁谷　鎮明（SIBUYA　SIZUAKI）
中部大学・国際関係学部・教授
研究者番号：６０２５２７４８
仲間　勇栄（NAKAMA　YUUEI）
琉球大学・農学部・教授
研究者番号：７０１４２３６２
山元　貴継（YAMAMOTO　TAKATUGU）
中部大学・人文学部・准教授
研究者番号：９０３８７６３９
鎌田　誠史（KAMATA　SEISI）
有明工業高等専門学校・建築学科・准教授
研究者番号：７０５１２５５７
(3)連携研究者
鈴木　一馨（SUZUKI　IKKEI）
財団法人東方研究会・研究員
研究者番号：５０２８０６５７
齊木　崇人（SAIKI　TAKAHOTO）
神戸芸術工科大学・芸術工学研究科・教授
研究者番号：９０１９５９６７
陳　碧霞（CHEN　BIXIA）
国連大学高等研究所いしかわ　かなざわオペレーチイン　ユニット・PD フェロー
研究者番号：５０６０６６２１